

山陰ビジネスコンテンツパーク協議会フォーラムでの知事講演

「まんが王国の建国と鳥取県のみらいづくり」

平成24年4月10日（火）

米子コンベンションセンター

誠におめでとうございます。

また、アルファビルのプロジェクトがいよいよ前に進むことになりました。これも本当に喜ばしいことをごさいます、私自身も東京の方など、このプロジェクトの推進を国の方に要請してきたものでございますから、非常にほっとしたと言いますか、すばらしいことだと感謝を申し上げたいと思います。

今日は先ほど秦野代表幹事がおっしゃっていましたが、このコンベンションセンターの周りの桜が本当に今綺麗に咲いているわけでごさいます、満開ですね、すばらしい桜になったと思います。まるで陣山さんが花咲じじいのように補助金と一緒にやって来られたと、こんなことかなと思ながら先ほどのご挨拶をうかがっていたわけですが、本当にようこそ今日は鳥取までいらっしゃいました。ありがとうございます。

このプロジェクトでごさいます、長谷川泰二さんこちらのコンベンションの専務をされていますけれども、新しいコンテンツ産業を興そうということで、やっていこうじゃないかという話をしているわけでごさいます、それに共鳴をされて、多くのクリエイターの方や若い方々が集まってこられました。すばらしいメンバーが今そろっていると思います。

この新しい産業を育てていくということでごさいますけれども、これはやはり日本の行く末を、今後の産業の方向性というものを、私たちは実はここ米子から見いだそうとしているんじゃないかなと思います。先ほどの坂口会頭や秦野代表幹事のお話、あるいは米子市長のメッセージの中にも表れていましたけれども、中心市街地の活性化だとかいろんなテーマがあるんでしょうけれども、それがさらに未来型の産業へと展開していくと、そのためのまちづくり、あるいは産業づくりの基盤が今できようとしているのではないかと思います。

今日も講師の中に立たれますけれども、ラ・コミックの寺西さんがいらっしゃいます。数年前に新しいビジネスをこちらの方で起こされました。私も当時お話を伺って聞かえてきました話としては、東京でなくてもコンテンツ産業はできるはずだと、まんがを題材とした新しいビジネスを山陰でもできるのではないかと、こういうような発想でごさいます、絶対そうだと当時も私思いました。

今日こちらの新しいプロジェクトの中に、幸形さんでありますとか、河野さんでありますとか、さらにこちらの方に来られた大西さんでありますとか、そうしたメンバーがそれぞれ我も我もと名乗りを上げてきていただいているわけであります。

今米子の方ではヨネギーズが大人気でごさいます、ブログまで書いておられるということでごさいますけれども、そのヨネギーズにあやかって、タオルが売り出されてお土産物になったり、このようなことに展開していくのは、やはりまんがといいますがアニメ、

コンテンツの力かなと思うわけでありませう。

今、インターネットの社会になりました。世界中から私たちを見てくれている。ただその私たちを見てくれるかどうかは、発進力が勝負なんです。ですから、我々がどれほど力のある、インパクトのあるメッセージないしコンテンツを生み出して問うていけるかどうかということだと思ひます。

米子でそれができるだろうか、山陰でできるかどうかということに疑う必要はないと思ひます。こちらに出版式の映像がござひますけれども、まんが王国を建国することでフェーズを変えることができるのではないかと、我々の地域に新しいテーマとしてまんがというものを導くべきではないかというふうにかえてきたわけでありませう。

実はこれは元々観光の話から、人寄せの1つの材料としてマンガのパンフレットを作ろうぐらいから、県庁の中で話が始まったようなことでありませうけれども、ただそれだけ細々とやっけてもしょうがないと思ひます。

今世界中から観光客が日本にやっけて来る時代になりました。そういう時代になつて、じゃあ世界中のほかの地域と差別化するものがあるだろうかということでありませう。そもそも今回のこのきっかけとなりましたのは、実はマンガサミットというものがあると、これも近々日本に回つてくる順番らしいという情報から始まりました。それで、私ども鳥取県としてここは一つ勝負をかけてみても良いのではないかと、頭一つ出するためにはネームバリューを得る必要があるだろうと、マンガサミットを誘致することで、まんがのふるさと鳥取県、まんがの王国鳥取県とアピールできるのではないかと、この辺りをそもそも考え始めたわけでありませう。実は、ライバルの地域はあつたんですね。韓国の中は持ち回りでござひまして、富川という町、これは韓国のまんがの中心地でありまして、マンファ映像振興院という国の組織があるんです。米子にもしそういう国のまんがコンテンツの振興院を作られるのであれば、私ども誘致をさせていただきたいと思ひますのでお願い申し上げたいと思ひます。そういうのを国がやっけていますね、それが富川という町でござひます。その次が北京、こうやっけて各国のメジャーな都市を回っています。

日本の中では横浜ですとか京都ですとか東京などがこれまでもやっけてきたところであつて、山陰に果たして来るだろうか、鳥取に来るだろうかということは心配もあつたわけでありませう。ただ色々プロモーションをかけてみますと結構反応が良いんです。何でかなと思ひますと、やっぱり水木しげる先生の水木しげるロードがござひまして、その鬼太郎のブロンズ像で観光客がやっけて来ていると、当時まだゲゲゲの女房が放映される前でありませうけれども、その当時でも毎年毎年集客が増えていって100万人とかこういうなことになる、そういうところというのは漫画家にとって非常に興味深いところ、行つてみたいところというのがあつたようであつてござひます。

だから鳥取県というのは、そういう意味ではマンガサミットをやっけても良いんじゃないという空気になつたわけであつて。ほかの地域でも、名だたる漫画家の出身地がござひますので、激烈な競争ではあつたわけでありませうけれども、日本国内の方で鳥取県が選ばれ、そしてソウル近郊の富川でやっけたときに正式に決まり、北京で次回開催地というアナウンス

スができたわけでございます。

それで各国の方々と話をさせていただくわけですね。私自身もそういうマンガサミットの方に出席をさせていただきました。各国の漫画家の皆さんも鳥取知っているよということですね。今インターネットの時代なので水木しげる先生だとか青山剛昌先生、そのふるさとは鳥取ということは良く皆さん知っておられまして、それはぜひ鳥取に行ってみたくて、鬼太郎の町があるようだけれども行ってみたいというような話が聞こえてくるわけでありまして。こういうふうには実は、我々が考えている以上にパワーがこの地にはあるんだということだと思えます。それをもっと具体化するために、今年にまんが王国の建国を宣言をして、こちらの方にムーブメントを持ってこようと、波を引き寄せようということでありまして。

ここにあるのは4月2日にコナン列車を走らせた時の画像でございます。真ん中にあるのがファンの子どもさんでありますけれども、3.6倍の競争率で全国からこの列車に乗りたいという応募が殺到しました。厳正な抽選で選ばれてやってきたんですが、この子は徳島の子でございます。たった2両の列車なんですけれども、北は東北から南は九州までの家族が集まりまして、ワイワイと興奮してこの汽車の旅、乗り込んでいったわけでありまして。たったこれだけのことで、このような吸引力がある。そのまんが王国、ぜひ今年には皆さんと一緒に作っていきたくて思っています。

その成功のモデルになりましたのが水木しげるロードでございますけれども、ご案内のように300万人以上の観光客で賑わうということでございます。つい先だって3月8日にリニューアルオープンをされました。御覧になった方もいらっしゃるかと思いますけれども、内容を少し改められまして、従来本が置いてあったようなスペースにも展示のスペースがやってきたり、水木しげる先生の御一家が、ゲゲゲの女房で大分取り上げられましたので、その家庭の感覚、空気がわかるような、そういう食卓のセッティングとかいろんな工夫が今度もできまして、なお一層面白い見応えのある博物館へと生まれ変わったと思います。この3月8日でございます、この日は議会も休会日にさせていただいたものですから、私も参列をさせていただくチャンスいただきました。参りますと水木先生のご家族が勢揃いでございます。この間は一畑薬師に勢揃いされていたようでございますけれども、3月8日の時は境港の町に皆さん集まられまして、水木先生、奥様の布枝夫人、さらにご兄弟、このご兄弟がまた非常に活発な方で、弁舌もたりますし、楽しい方でありまして。娘さんお二人、お一人は水木プロダクションの社長さんでいらっしゃいます原口尚子さんでありますし、あともうひとり方もいらっしゃって、ドラマそのままに皆さん御一家がおそろいでございました。

恒例によりまして、挨拶を皆さん順番にされるわけでございます。私も卒寿おめでとうございまして、ここにいらっしゃる水木しげる先生ご夫妻を拝見しておりますと、まるでまんが王国国王ご夫妻のようでございますねと言いましたら、結構奥様が喜ばれまして、実は私もまんが王国の国王になってくれないかと水木プロにお願いに行ったことがあるんですけれども、もの見事断られまして、その日はゲリラ的に言ってみたとのことであった

んですけれども、そのようなことなど、皆さんが順番に話をされます。水木先生も壇上には上がられまして、ご挨拶をと司会が勧めますと、水木先生はおもむろに壇上に上がられまして、大先生になると挨拶も違うなど、うらやましいなと思ったんですけれども、挨拶で中央に立たれるやいなや、「司会の人に挨拶をしろと言われたんですけれども何も言うことではないんです。」それで、「自分は90歳になりましたが、この年になりますと80とは人間の格が変わってくるもんですなあ。」といいまして、「90にもなると嬉しいとか悲しいとかそういう感情は薄れていくもんなんです。だから話すことはありません。」と言ってそのまま段を下りて行ってしまったわけです。

こういう挨拶で済むならうらやましいと思ったんですけれども、私もこういう商売ですから思ったわけでありまして、さすが大先生でありましてちゃんと計算をされて、しゃべっておられるんだと思います。そういういろんな華やかなこともございましたけれども、水木しげるロードこれが成功モデルになったわけです。これを考えてみれば県内の各地でも賑わいを広げていくのではなかろうかということをご希望していきたくて考えております。

谷口ジロー先生は、フランスの方でシュヴァリエの称号を取られました。文化勲章にあたるものであります。また、アングレームのシナリオの賞も受賞されておられますし、水木先生も富川の国際漫画賞を谷口先生と同様に取られておられたり、様々な賞を取られています。青山先生も世界中でコナンが大変な人気でございます。今日も台湾からお客さんが来られてまして、朝お会いしてからこちらの方に参ったんですけれども、やはりコナンのミュージアム、青山剛昌ふるさと館に行かれるのを大変楽しみにされておられました。その台湾の皆さんには鬼太郎のグッズを差し上げたわけでありまして、その台湾でも近々台中で水木しげる先生の世界の展覧会が始まります。今は台北でその展覧会をやっておられます。このように世界中で評価をされている。だから我々のコンテンツとして、こういう地域と結びついたまんが・アニメのキャラクターというものを売り出すチャンスとして活用していくことができるのではないかと思います。

クリエイターと言われる方、漫画家、アニメーターたくさんいらっしゃいます。そのお三方以外にも藤原さん、これもおそらく今回の国際まんが博の一連の中でどこかで顕彰事業をやることになるんじゃないかと思いますが、アダチケイジさん、細川雅巳さん、細川さんは今子どもたちの間で人気がある「シュガーレス」という単行本を出されておられます。チャンピオンに連載しておられる方ですけれども、本当に若い30ぐらいですかね、若い方です。先般も東京でご協力をお願いにあがりましたが、ぜひ一度鳥取の方を訪ねて参加しましょうというようなお話がございました。赤井孝美先生、米子とも非常に関係が深いわけでございますけれども、「プリンセスメーカー」のゲームシリーズなどされていますし、ガイナックスはエヴァンゲリオンを出された会社でもございまして、赤井先生ご自身本当に献身的にここ米子の発展のために協力をしていただいております。我々もその気持ちに答えていかなければいけないと思います。

また、長谷川洋さんというのは、これはスタジオディーンの社長をされておられた方で

ありますけれども、「うる星やつら」だとか「めぞん一刻」だとかこういうアニメを出された方でございますが、今国際まんが博でも協力をお願いしましたけれども、いろんな市町村の行事のつなぎなどをして、何かイベントの大きな仕掛けをしていこうということでも動いていただいております。

こういう様々な関係者の方がいらっしゃる訳ですが、それに続くクリエイターを育てていこう。さらに、コンテンツの発信基地としようということで、アルファビルを拠点とした活性化が始まろうとしているわけございまして、ぜひ応援をしていきたいと思っております。

この新しいアルファビルのプロジェクトでございますけれども、今般陣山さんの方でご苦労いただきまして、国の方の補助が付くということになりましたが、県としてもぜひ協力をさせていただきたいと思っております。そうして事業の最初の財政的なスタートを支えるということをしていただこうと思っております、6月の県議会で議案も提案していきたいと思っております。

企業とクリエイターとのマッチングとしていろんなことが始まっています。稲田姫のキャラクターを作られたわけですが、YNG 88、米子の米の88ということでありますが、そういうプロジェクトをスタートしました。また、鳥取発のまんがコンテンツ産業として、「きみうたつむぎ常」これはサークル活動を通じて、地元のいろんな歴史伝承になじんでいくというそういうゲームを解きながら実在の地名をたどって歩くという夢のあるゲームができようとしておられます。

また、看護職員の募集ポスターにまんがを活用した例でございます。こういうコミュニケーション手段としても非常に有効だと思っております、今県の方でもコマーシャルだとか新聞広告にあえてまんがを活用しながらやっておりますが、非常に浸透しやすいツールだと思います。この看護師の募集ポスターも南部町の坂本町長と出会いましたら、非常にびっくりされてまして、「今時はこういうポスターにすると本当に人がやってくるんですね。」とか言っております、実際電話がかかってきて問い合わせが来ると、今まで何もないければ、西伯病院看護師募集と言っても一別されて終わってしまうということであったのが、こういう自分の世界だというのが、急にマンガということになりますと変わりますので、これはやらなきゃということで応募された看護師さんが出てきたということです。これが先ほど稲田姫も同様の効果があるんじゃないかということでもあります。

コンテンツ産業はですね、世界的にも成長市場ということになってきておりまして、中国では年率8パーセントの成長だと言われておりまして、隣の韓国でも7パーセント成長だということでございます。先ほど申しました韓国マンファ映像振興院でございますが、韓国政府は設立をされたものでございます。この院長さんに先日お会いしまして、今回の国際マンガサミットやまんが博に協力をお願いをしましてまいりました。院長さんは今年2度3度と鳥取県、米子の方に行きましようという話をされておりました。その院長さんご自身も韓国でとっても人気のあったロボット系のアニメを製作されたプロデューサーの方でございまして、その方が院長をされておられます。

国をあげて、K A R Aだとか少女時代だとかもそうでありまして、韓流ドラマもそうでもありますけれども、まずこういうソフト、コンテンツというところから国を支えていく、勢いを作っていく、これが韓国のやり方であって、我が国もやはりまだまだこの点は力不足といいますか考える点があるのではないかと思います。

私もこの会場というか建物の中ですね案内をされまして歩いてみましたけれども、中には20社以上の20人以上の漫画家の方だとか10数社だと思いますがコンテンツ関係の会社だとか入っておられまして、インキュベーター施設のビッグサイズなものだと考えていただければいいと思います。まんが・アニメ系でございますので、そんなに大きな部屋は必要ないんだろーと思います、だから米子のアルファビルからまず皮切りにして、ここ鳥取県米子、山陰というものをゆりかごのような形にして、クリエイター、アニメーターを育てていく、漫画家を育てていく、そういう場所の提供をしていったらどうかと思いました。

私どもでも、そうしたコンテンツ産業の応援の予算を今年入れさせていただいたところでございます。また、日本のコンテンツでございますけれども、世界的にも「アストロボーイ」、「鉄腕アトム」だとか「ドラゴンボール」のようにリメイクをされたりするほど人気があるということでございまして、ハリウッド映画会社がこうした版權を取ったということもございます。

手塚治虫さんのプロダクション、松谷さんという方が社長をされてまして、実際そのアニメなんか手がけておられます。難しいのは、後はどういうコストでやるのか、どういう仕組みでビジネスとして成り立たせるかということだと思います。その社長さんについて先日も実は鳥取の方にエンジン01という会合がありまして、そちらの方に手塚プロさんも来られていたんですけれども、その松谷さんと富川という映画祭をやっている、まんが博をやっているところがございます。その時にマンガサミットを韓国でやった際に、夕食を一緒にさせていただいて意見交換をしたんですが、中心は中国で書いているというわけです。今そのコンテンツ産業もやっぱり中国、韓国、特に中国の成長が大きいわけでございます、先日も上海に行きましたが、上海で説明会をまんが王国でやると言いますとたちまち人が集まります。集まってくるのは、やっぱりアニメーション関係の事業者だとかメディアの方が多いわけでございますけれども、上海辺りも一大集積地になりはじめていると、だから日本でやるなら、こういう山陰みたいなところがあるんじゃないですかと大分手塚プロさんにも申し上げたんですけれども、「なかなかコスト面ですとかそういうことを考えると。」と二の足を踏まれるような感じがございました。

だから、スモールビジネスからまずは始めていってだんだん大きくしていくと、場合によってはそういうアニメーション関係の誘致なんかも県なり市なり、そうした地域としてやってみる。そんなことを展開していくのかなと思います。

世界的にも評価されている日本のコンテンツでありますから、席卷している状況がございまして、フランスのジャパンエキスポだんだん恒例の行事になってきましたけれども、この度は19万人という集客でございまして年々増えています。アメリカの方でもアニメ

エキスポ、これはロサンジェルスの大会でございますが、それでは今回は12万人という集客がありまして、この辺もニュースで世界中にその映像が流れていく。日本だとまだまだなじみがない、意外にそういうところがあると思うんですね。例えばコスプレだとかアニメソング、この辺も決してばかにならないわけでございます。

ここ鳥取県米子のこの会場自体がアニカルまつりの会場になるわけございまして、今回も9月に設定させていただこうと関係者が頑張っておられます。昨年9月の始めの時は台風12号が来て大変な騒ぎでありました。私自身も防災服に身をまといまして、東郷湖に行ったりいろいろと走り回った日でありましたけれども、朝方ふと気になってこのコンベンションセンターでやるはずだったアニカルまつりはどうなったのかなと、関係者の人たちを励まさないといけないなと思ってやって参りましたら、大変な雨風ではありましたがけれども、ぜひ今日やりたいと若い人たちが熱を上げておられました。どうなるかなと思いましたがけれども、7千5百人の方が集まったというから驚きました。実際飛行機が飛ばないとか、とんでもない状況であったわけでありましてけれども、それでもアニカルまつりが大変な集客力があって、それも去年のグーグルの検索ヒット数を見ますと、鳥取県関係のヒット数ナンバーワンは、大山だとか鬼太郎だとか砂丘ではなくて、アニカルまつりだった訳ございまして、それだけネット上でも注目をされたということがわかったかと思えます。

今そういう時代になってまして、こういう一つのポップカルチャーをもっと大胆に我々も取り込んでいくべきではないかと思えます。ただ、先般も2月議会でいろんな論争もあるわけでありまして。まんが王国の是か非かということで論争にもなりました。特に公金が入るような大きな催しである以上は、さわやかな青少年でも楽しめるようなものをぜひ配慮してもらいたいと、その辺はいろんな声としてありましたので、関係者の方々にもその辺のご理解もいただきながら、ぜひとも盛り上げて行きたいと思えます。

この国内各地でもまんがカルチャーが育ってきておりまして、先進地が多いわけです。実は我々は水木しげるロード以外の点では後発地だと思って、キャッチアップをしなければいけないと思えます。まんが甲子園、これも恒例の行事となってきました。我々のところでは、国際まんがコンクールを実施しております。11月に表彰式をしようと募集もしまして、審査に入ってきました。世界中から集まりました。特にロシアの応募が多かったですね。結構レベルの高いマンガも来ているというふうに見受けられます。そうやって世界に向けて鳥取の名前を発信していくということで、このまんが甲子園のような別の意味の取り組みを鳥取から恒例化できればいいかなと思えます。

また、マチアソビ徳島であります。これもうちのアニカルまつりをもう少し規模を大きくしたようなものがございますけれども、このマチアソビ徳島の市内でアニメ系のイベントをやるわけでございますが、平成21年は1万人の集客です。平成22年が2万人、平成23年は4万7千か5万人近い、要は倍々ゲームで集客が増えてきているんです。当然その期間は宿もいっぱいになりますし、結構な経済効果が出てきているということです。

うちのアニカルまつりもそういう意味で若い人が中心で頑張っていますんで、ぜひ皆さ

んも感心を持っていただきたいと思うんですが、去年7千5百人であれだけの天気の中でスタートできたということであって、有料のイベントですから、それが次年度その次の年とだんだんと育っていく可能性が十分にあると思います。今年は国際まんが博の一環でアニカルまつりをやりますけれども、ぜひこれも米子の中核イベントとして、米子映画祭と一緒に盛り上げていただければと思います。

また、新潟だとか神戸でもこうしたマンガにちなんだイベントが進みつつあります。文化芸術として親しまれるマンガでございますが、京都では国際マンガミュージアムが小学校の後を活用して作られております。また、新宿の方にあります現代マンガ図書館、これはいずれオープンする明治大学の国際マンガ図書館に引き継がれていくということになります。2014年を目指して明治大学はやっておられます。我々鳥取県は、明治大学の岸本辰雄先生という開学の祖の出身地ということもございまして、ぜひ連携して鳥取県内にもそうした動きができないだろうかという今模索をしているところでございます。

国際まんが博の期間中もこの明治大学のマンガ図書館の資料を巡回展示をしてもらうということにさせていただいております。その他にも広島とか京都の精華大学ではマンガ学部が発足するとのことでもございました。

いよいよ国際まんが博が開催されることになりまして、昨日実行委員会が立ち上がりました。市町村、商工団体、観光団体、農林水産業団体や大学関係者と一緒に実行委員会を組織しまして、これから後はやるだけだということに動いていくことになります。

この国際まんが博でありますけれども、これは県関係で直接やる部分もございまして、もっと大きなパートはですね、地域のそれぞれのイベントでございます。ぜひ各地からのいろんな応募をお待ちしております。4月19日に第一次の締め切りをしまして、またその後も募集がございまして、できるだけ早くそういう動きを立ち上げていこうと、県としても助成金も含めて始めております。

そうした地域のイベント関係では、1億円の助成事業を総額で組んでおりまして、かなりの数のイベントなどを実施可能な状況でございます。そのうち、ちっちゃいものでは10万円規模の補助金ということもございまして、100万円規模の補助金とか、それから中核的な戦略的なものであると500万円規模の助成プログラムだとか、そういうものを500万円規模のものであれば8件、かなりの数用意をさせていただこうと、ですから今年ですね、要はぎゅうっと凝縮をして、ある程度エネルギーを集中していろんなタイプのコンテンツのイベントをできないだろうか、その中でこれは良いぞとなったものを、翌年以降も続けていって発展をさせていくと、そうしてはじめてマンガのふるさと、コンテンツのふるさと鳥取県ができるのではないかと思います。そういうコンセプトでやっておりますので、ぜひそちらの方もご応募いただければと思います。

この国際まんが博でございますが、今の考え方として、メインとしてはここの地元の鬼太郎、コナン、あるいは谷ロジロー先生といったそういう漫画家をメインのコンセプトにしまして、さらにディズニーのスティッチも案内役として登場させると、そうしたことで巡回していく。県内3カ所を鳥取まんがワールドと称しまして、東部、中部、西部の順番

に回っていくイベントを一つ組みます。また、常設的に水木しげるロードであるとか、あるいは東部のわらべ館であるとか、中部の青山剛昌ふるさと館であるとか、そうしたところを中心にしまして、いろんな常設イベントも組んでいくと、そうして住民の皆さんや市町村、そうした皆さんがされるイベント、こういうものを組み合わせていきまして、8月から11月まで切れ目なく楽しんでいただける。鳥取に行ったらまんがやアニメに出会えるというようなことにしようというコンセプトでございます。

なかなか難しいのは著作権の問題などがございまして、その辺は県の方でも難しい相談事は間に入らせていただいたり、相談にあずかせていただこうということにしております。

最初にスティッチ問題というのが登場しまして、ちょっとメディアで取り上げられまして、何で鳥取で外国のスティッチが来るんだということで、新聞でも若干叩かれたわけですが、そうしたらそのうち、東京の方から噂が聞こえてきてまして、水木プロが難色を示している。青山剛昌先生の機嫌が悪いらしい。それで、私も東京の方に挨拶方々協力依頼にあがらなければいけないということで行こうとしたら、やはり原口尚子さん、水木先生の娘さんは本当にお優しい方でいらっやいまして、それだったら自分たちが関係者を集めるから、それで話し合いましょうということになりまして、東京の方で話し合いをさせていただきました。

小プロと言われます小学館集英社プロダクション、あるいはマンガサミットの事務局、それから水木プロその辺で集まりまして、話し合いをさせていただき、ぜひみんなで盛り上げて行きましょと、できれば地元のキャラクターが登場するメインコンセプトを作っちゃっていきましょと、皆さんは当たり前のように思うかもしれませんが、実は全然別の漫画家の方が書かれたものが一つの絵の中に収まるというのは普通はありえないことであります。著作権などにお詳しい方であればピンと来るとは思いますけれども、これはまんが王国とっとりだからこそ、そして国際まんが博というネームがあるからこそ協力が得られてやられるものであります。そういう国際まんが博でございますが、わらべ館、青山剛昌ふるさと館、水木しげるロードなどの常設スポット、それからまんが王国のインフォメーションコーナーなどを作っていこうと、こういうものを常設的に作ります。

それから鳥取まんがドリームワールドというこれは東部、中部、西部を移動する移動型の博覧会を実施をしようと、最初に8月4日のコカコーラウエストパーク県民体育館、東部から始まりまして、最後はちょっと長めにですね、西部会場、どらどらパーク米子市民体育館の方で、最終日は11月11日国際マンガサミットの最終日にセットをしまして、この間8月から11月まで県内を移動しながら渡り歩くということでもあります。ここに鳥取の漫画家の展示や体験、あるいはワークショップ、ライブステージ、グッズショップやカフェといったような飲食スペース、そういうものを作りまして、これが移動していくということでもあります。

それから数々のまんがイベントもゲリラ的に打っていくと、例えば東部の方で谷口ジロー先生の漫画の世界を再現するようなプロジェクトとか、また砂丘のところにまんが・ア

ニメ砂像を設置をする。今やっている砂の美術館とはやり方が違います。これは砂丘のモアイ像のお土産と同じ手法で作っているものですが、何らかのまんが・アニメの砂像を作って、砂丘でも楽しめる。それからアニソンコスプレバトル・ザ・ワールドというようなプログラムとかですね、中部の方では名探偵コナンがらみのイベント、さらに西部の方で妖怪屋敷のようなもの。こんなようないろんなイベントを仕掛けていく。さらにそれをつなぐ導線としてコナン列車や鬼太郎列車そうした列車を活用しまして、JRデスティネーションキャンペーン10月から12月まで展開をされます。それにも我々も便乗させてもらってですね、全国でもこういうまんがの旅を汽車を使いながらやりませんか、という誘因をかけていこうということでございます。

先ほど申しましたように鳥取県全域をまんがワールドとしてやっていこうと、米子では映画事変だとかアニカルまつり、さらに日南でもまんが・アニメのイベントをやろう、また中華コスプレ大会や里中満智子先生の作品展、これは因幡万葉歴史館、そこが里中先生も最近、「天上の虹」という万葉の時代を扱った、奈良時代の持統天皇の時代のまんがを書いておられまして、そうしたこともあって、作品展をやろうとかいろんなことをやる。これだけではありません。それ以外にもいろんな市町村だとか住民の皆さんのイベントもどんどんこの中にプロットしていきまして、それを渡り歩いていただく、そしてスタンプラリーを行いまして、鳥取中をくまなく見ていただく、食べていただき泊まっていたかと、そんなような仕掛けを考えているわけでありませう。

特別企画として、ヒトコマまんが展、この間もヒトコマまんがの先生方が鳥取の方に来られました。ここにありますのは前回巡回展示をしたものでございますけれども、この度も8月から11月まで巡回展示をしようと、このまんが王国をはじめましたら、ヒトコマまんがの業界があるんですけれども、そちらの皆さんが非常に鳥取に好意を持っていただくようになりまして、御協力をいただけるようになっております。また、台湾に行ったり、ソウルに行ったり、いろんなところに行きまして、向こうの漫画家の組合などと話をさせていただいております。そして世界中の漫画家の作品を鳥取の方に早めに集結をせしめよう。8月から国際まんが博が開かれるときに、展示をさせていただくということも考えています。

鳥取アニカルまつり、9月8日、9日でございますし、また、ゆるキャラフェス、中華コスプレアジア大会、そうした行事も続々と行うことにいたしております。

石巻とのつながりを今作ろうとしています。実は先般このビッグシップの一番上階の会議室で国際マンガサミットの実行委員会を開いたんです。里中満智子先生だとか、ビッグ錠先生だとか、そうした先生方が集まられまして、今回の国際マンガサミットをどういう内容にしていくかという話をさせていただきました。その時に漫画家の先生方の方から皆さんで応援をしている石巻の石ノ森章太郎ミュージアム、これを応援をしたいという話がありまして、ぜひそうしたら米子でも応援をさせていただきたいと、今回の国際マンガサミットの期間中も募金を呼びかけたり、あるいは今津波の関係でオープンできていない石ノ森漫画館の作品をこちらの方で展示をしていただいたりして、ぜひ震災から立ち直っ

ていく。それをつながりを持って我々もやっていきたいということを申し上げたところでございます。今、それを具体化しようということで里中満智子先生にも動いていただいておりますし、我々の方でも動こうとしているところでございます。

その国際マンガサミットであります。世界中から400人が集まるまんがイベントでありますけれども、この会場が主会場となりまして、同時通訳をセットをしてここでご議論がございまして、食と海、そしてまんがと地域経済効果、このサブテーマの方は漫画家の皆さんからぜひこの鳥取県でやるのである。このことを題材にしたいということがございまして、追加をされたものでございます。併催のイベントをこちらの大ホールなどを活用しまして、ここでも先ほどの国際まんが博のような作品展だとか、グッズ・フードそうした賑やかなスペースを作って、こちらの方にも集客を図っていこうと考えております。

サミット開催に向けまして、今向かいはじめまして、イメージキャラクターの愛称も募集をいたしました。これは里中満智子先生が書かれたものでありまして、よく見るとワンピースのスカートに駒割がしてありまして、これまんがになっていますし、鳥取をイメージして羽が生えているということでございます。この国際マンガサミットをぜひ地元の皆さんと一緒に成功に導きたいと思っております。まんがの教室だとかサイン会こうしたものがこれまで持ち回りで世界でやっているときになされています。鳥取のイベントの時もこうしたものも期待できようかと思っております。

昨日、鳥取PRキャラバン隊、これは半澤さんだとか、だらずのプロジェクトの皆さんが中心になってやっております。松村さん紙芝居の方だとか、キャラバン隊が結成されました。移動ラッピングカーのイメージ画像がありますが、イメージでございまして、松村さんの夢でございまして、予算が足りませんで2階建てのバスが実際はワンボックスカーになっておりますが、似たようなものでございますので、ぜひお近くに来たら応援してやっていただきたいと思っております。

首都圏、関西でも発信をしようと、関西では先般、日本橋でのストリートフェスタで私も歩いて回りましたが、すごい人です。また鳥取県内ではあまり珍しがられませんが、鬼太郎の着ぐるみなんかも、向こうに行きますと大人気ですね。めったに来ないものが来た、こちらは住んでますからね。向こうは住んでませんのでなかなかやって来ない。また、首都圏の方でも秋葉原と今協定を結びまして、秋葉原でのイベントを計画しています。東京アニメコンテンツエキスポ、3月31日、4月1日、あの大風の日であります。この時も5万人ぐらい人が出まして、大変な賑わいでした。鳥取のこともアピールをさせていただきました。

まんがと温泉のコラボで三朝でもまんが図書館をやったり、皆生でも鬼太郎のルームを作ったり、また、古事記の1300年祭ともタイアップしたキャンペーンを南部町や淀江の方でもされています。国際リゾート化を目指してぜひ外国人の方にも来られやすい、来ていただきやすい環境を整えようとしています。

コンテンツのチャレンジ支援で、この度の県の当初予算で上限200万円の3件のビジネスチャレンジ事業というものを考えました。ぜひご活用いただきたいと思っております。先ほ

ど申しましたことに関連しますが、まんが・アニメ活用のトライアル事業、これはイベントだけでなく商品開発などにも使えるように制度設計をさせていただいております。こうしたことをお問い合わせ、ぜひ県の方にもお願いを申し上げればと思います。

痛車のEVカーでございますが、赤井さんが書かれまして綺麗な車体ができまして、法勝寺の商店街の活性化にも一役買いました。赤井さんが何で猫にしたのかなと思いましたが、インタビューに答えておられまして、米子は猫のイメージがあると言うんですね。なるほどなそういうものかなと思いました。確かに人なつっこい、乗りやすい、そういうところがありまして、また東部の方と違まして、東部の方はどちらかという犬だと思っております。見知らぬものが来ると吠えると、ただその代わり後でなついてくると絶対このご主人様から離れないというぐらいに東部の方はなるんですが、西部の方はぷいっと逃げてしまうと、猫らしいかなと思います。赤井さんはその辺を言おうとしたのかどうかわかりませんが、どうも米子は猫のイメージがあるとおっしゃって、猫をモチーフにされたそうであります。

コミュニケーションツールとしてまんがを活用させていただいております、看板だとかそういうのも付けさせ始めました。鳥取力創造運動、これもまんがコンテンツにも使えます。まんが王国の建国プロジェクトとして、マンガサミット応援団をだらずの皆さんでやられておられますし、妖怪列車のツアーも去年しました。今年もこの鳥取力創造運動でも支援させていただけると思います。

次代を担うまんが人材、これにつきましては、高校生の応援団を今組織をさせていただいております、これからだんだん盛り上がってくるだろうと思います。教育委員会も本気で今まんがを始めたということでございまして、時代は変わったなあと思います。大阪と違まして、仲良くやりますんで付いてくるということかもしれません。鳥取環境大学につきましては、まんが文化論の講座ができました。いよいよスタートします。来月には里中満智子先生が来られまして、オープンキャンパス的な講座をやります。もしよろしければお越しをいただければと思います。

そういうようなことで、まんが王国に向けて発信をさせていただきましたが、我々はやっぱり粘り強くこの夢を追わなければいけないと思います。「好きなことをやるのは当たり前、だって、その方が頑張れるもの。でもそれだけじゃだめ。頭を使って、知恵を振り絞らないと。成功するんだという強い意志を持って努力しなければいけない。」と水木先生が最近出された本の中に綴られておられます。我々のふるさとの恩師でもあり、導き役でもございます水木先生のこの言葉を皆様にとらせていただきまして、山陰コンテンツビジネスパーク協議会のご発展を祈念申し上げたいと思います。

本日はほんとうにありがとうございました。